

目 次

町誌「歴史編下」の発刊に寄せて

監修のことば

凡 例

第四編 近 世

第一章 上田藩の支配

第一節 領主の変遷

1 真田氏の支配

信之の治政／松平へ移封

2 仙石氏の支配

仙石氏の入封と三代の藩主／仙石三代の治政

3 松平氏の支配

藤井松平氏の入封／初代忠周／二代忠愛／三代忠順／四代忠濟／五代忠学／六代忠優／七代忠礼／松平氏の治政

第二節 地方の支配

1 地方支配のしくみ

組制度と洗馬組／村役人

真田町誌刊行会長 箱山 好猷

監修者 黒坂 周平

2 宗門改めと五人組

- (1) 宗門改め 作成の開始とねらい／書式と内容／作成の様子／旦那寺の実態
(2) 五人組 五人組帳と御条目請帳／村内での五人組分布

(コラム) 鉄砲

3 御触の徹底

御触／御触書の内容／松平氏の御条目／踊りの規制

4 巡見

- (1) 役人の巡見 巡見
(2) 藩主の巡見 天保の白山参詣と巡見／天保の洗馬巡村
(3) 藩主の四阿山参詣 宝暦の四阿山参詣

第三節 土地と農民

1 貫高制と検地

貫高制とその存続／村々に残る貫高帳／村高（本貫高）の変遷

2 新田の開発

元禄以前の新田開発／元禄時代の新田開発／宝永以降の新田開発

3 菅平（沼平）の開発

菅平というところ／菅平の開発者道向のこと／開発願いと開発の進展

第四節 年貢と農民

1 本年貢

真田氏の時代／仙石氏の時代／松平氏の時代

2 年貢の納入	108
米（糲）納と金納／郷藏と貯穀／上州出米とその輸送	
3 小物成	115
種類と負担額や量／特別な税田役米	
第二章 村と生活	121
第一節 村役人	122
1 大庄屋と割番	122
大庄屋の創置と終焉／割番役の創置と終焉	
2 村方三役	122
村役人と役家／村役人の交替	
3 褒賞と村人	121
藩財政の窮乏と褒賞制度／格と農民	
第二節 村 定	121
1 村定の内容	144
横尾村の儉約規定／大日向村の村定／下原村の五人組証文帳	
2 村定違反への处罚	144
博奕の处罚／不身持ち議定書	
(コラム) 村夫錢の話	152
第三節 村の構成とくらし	155

1	村の構成	155
(1)	村別戸口の推移	
(2)	年齢別人口構成	
(3)	家族構成 家族構成員数の推移／大家族の構成実態と推移	
2	村人の動向	171
(1)	結婚 婚姻の成立／結婚年齢／通婚圏	
(2)	死亡 死亡届け／死亡年齢	
(3)	家出・出奔 届け出／捜索／帳外者／帰村者	
(4)	引越し・他所借宅	
3	家屋と規模	193
(1)	家屋建設願い	
(2)	家屋の規模 居家の規模／雪隠・物置・土蔵の規模	
4	物 価	200
第三章	産業と経済	
第一節 農 業		
1	宝永差出帳による農業	203
	村別田畠の面積	
(1)	稲作 米づくり／田方養い／種枠／稲の品種／田方場所／田方麦	204
(2)	畑作 麦作／畑作物	204
2	農 書	213
3	農業經營	214

農民の土地所有／農民の山林所有／農家の経営／地主の経営

第二節 用水堰

1 洗馬組の用水堰

宝永差出帳の用水堰

2 吉田堰の水論

吉田堰の水利慣行／文政の水論

第三節 入会山と山論

1 洗馬組の入会

山野の利用／入会山

2 洗馬山の入会

入会村々／山札制度と札元／札場／大札と半札／山札数の半減

3 境界や入会をめぐる争論

(1) 甲石村と大笛村との国境論 甲石村の敗訴

(2) 小県郡と高井郡との郡境争い 争いの発端／高井郡側の江戸出訴／幕府檢使による論所の検分／小県側の勝訴

(3) 横尾（長）と上洗馬（傍陽）との村境論 江戸中期から続いた境争い／明治の争い

(4) 洗馬山の山論 享保の出入／出入の原因

(5) その他の山論 角間御林／赤井山出入／鳥屋山出入

第四節 村の産業

1 農民の副業

作間稼ぎ

桑栽培／蚕種商／種場／生糸

酒造株／酒造統制／酒商い

水車新建／藁打ち車／がつたり

第四章 交通と運輸

第一節 洗馬組内の道

1 主要な道

2 大笪街道

3 上州道

4 松代道

第二節 中馬と手馬

1 中馬の公認

宿場との対立／幕府役人の中馬村検分／明和の裁許

2 宿場や中馬との争い

油荷差し留め一件／中馬揚げ荷宿一件／継ぎたて役場一件

第三節 助郷

1 田中・海野宿への定助郷

助郷勤め高／助郷勤めの実態／伝馬の賃錢

2 中山道宿場への加助郷

(1) 加助郷拡大の波 八幡・塙名田宿から／沓掛宿から／小田井宿から
(2) 免除歎願 村柄検分／歎願書／江戸出府歎願
(3) 勤めの実態

第四節 庶民の旅

1 寺社参詣の旅

伊勢抜け参り／石尊・三峯山等への代参

2 稚ぎの旅

蚕種商い／背負い荷商い等

3 旅人への合力

(1) 合力の対象者 賢女と座頭／僧・社人／船頭・浪人／旅人
(2) 合力の内容

4 旅と死・生

(1) 行き倒れ 5の事例／7の事例／13の事例
(2) 宿・村継ぎ送り

第五章 災害と飢饉

第一節 風水害

戌の満水／明和二年四月十五～十六日の洪水／文政八年四月二十九日の洪水／幕末の洪水

第二節 飢 餓 鍾

- 1 主な飢饉
- 2 享保の飢饉
- 3 天明の飢饉
天明三年の飢饉と上信騷動／天明四年以降の飢饉
- 4 天保の飢饉
上田藩における天保の飢饉

第三節 火 災

- 1 出火時の吟味と口上書
- 2 出火・焼失状況
- 3 出火の原因
- 4 火元の身の処し方

第四節 騷 動

- 1 宝暦騷動
宝暦騷動の原因／騷動の経過／農民の要求／町人・寺院方などの要求／藩の対応
- 2 世直し騷動（やら金騷動）
騷動のあらまし／騷動と洗馬組

第六章 学問と信仰

第一節 学問

1

寺子屋

寺子の入門／手習い稽古

第二節 信仰

1

村祭り

祭礼行事／祭礼規制／祭での酒商い／三ツ頭獅子

2

祀願

地震／天氣祭／雨乞い／湿り注進

3

寺社信仰

寺社詣り／伊勢詣り／道中日記／抜け参り

第五編 文化財

はじめに

指定文化財位置図／指定文化財一覧表

第一章 建築

第一節 概説

神社建築の概要／寺院建築／時代的特徴—木鼻／時代的特徴—海老虹梁・向拝内部／時代

的特徵—大瓶束／地域的特徵／工匠について／モチコミの住居／イワマツの芝棟

第二節 おもな建物

- (1) 横尾神社本殿
山家神社子安社
表木神社本殿
三島社本殿
出早雄神社本殿
菅田足玉神社本殿
石舟神社本殿
上洗馬神社本殿
伊勢神社本殿
大日向諏訪宮
竹室神社本殿
皇大神社本殿
信綱寺本堂
実相院本堂・觀音堂
広山寺本堂
自性院本堂
耕雲寺本堂
一之瀬家旧宅
- (18) (17) (16) (15) (14) (13) (12) (11) (10) (9) (8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)

第二章 美術工芸

第一節 絵画・書跡

- (1) 絵馬

(2) 亀田鵬齋墨筆「峻嶺軒」

第二節 彫刻・工芸

- (1) 木造馬頭觀音坐像（町指定文化財）
(2) 木造十一面觀音立像（町指定文化財）
(3) 木造阿弥陀如來坐像
(4) 木造僧形坐像（町指定文化財）
(5) 四阿山奧宮社殿扉殘闕

第三節 金工

- 銅造御正体 一
銅造御正体 二

- 鰐口 一
鰐口 二

- 鉄製湯釜

- (1) 刀 糸巻太刀柄付き（町指定文化財）
(2) 銅製鉦鼓 木製鉦架付き（町指定文化財）
(3) 銅製雲板（町指定文化財）

第三章 古文書

第一節 真田氏文書

- 1 山家神社所藏文書（町指定文化財）

- (1) 天正二年（一五七四）閏十一月 蓮花童子院宛真田信綱安堵狀
(2) 天正三年（一五七五）十一月 賴甚宛真田昌幸安堵狀
(3) 天正十年（一五八二）六月 宝藏院宛真田昌幸寄進狀

天正十五年（一五八七）十月 蓮華院宛真田昌幸朱印状
慶長十三年（一六〇八）六月 白山寺宛真田信幸朱印状
(6) (5) (4)
慶長十七年（一六二二）閏十月 白山寺宛真田信之安堵状

2 信綱寺所蔵文書（町指定文化財）

- (1) 天正十年（一五八二）十月 新香寺宛真田昌幸朱印状
(2) 天正十三年（一五八五）十二月 信綱寺宛真田昌幸判物
文祿元年（一五九二）一月 信綱寺宛真田昌幸室黒印状
文祿三年（一五九四）十二月 順京和尚宛真田昌幸判物
慶長六年（一六〇一）八月 信綱寺宛真田信之安堵状
慶長八年（一六〇三）三月 信綱寺宛真田昌幸書状
慶長十一年十二月 関新八宛矢沢但馬守等連署状
(8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1) 元和七年（一六一二）十一月 信綱寺宛真田信之禁制

3 実相院所蔵文書（町指定文化財）

- (1) 慶長六年（一六〇一）八月 実相院宛真田信之安堵状
(2) 慶長十年（一六〇五）八月 実相院宛真田信之安堵状

4 真田町教育委員会所蔵文書

- (1) 年次不詳正月 真田昌幸書状（町指定文化財）
(2) 天正十三年（一五八五） 真田昌幸宛豊臣秀吉書状

引用参考文献

編集後記

平成十年度 真田町誌刊行会委員名簿

歴史編下 編纂委員執筆分担

歴史編下 協力者

編纂事務局（平成十一年度）

真田町誌歴史編上巻目次

索引

ケース 「助郷村絵図」から洗馬組部分

横沢区・久保雄三郎家所蔵